

韓國日本語學會ニュースレター

[2023-2]



発行人: 盧姪鉉 / 編集人: 張良光 / 発行所: 韓國日本語學會 / 発行日: 2023.9.1.

ご挨拶	1
役員名簿	2
常任理事会	7
会員情報	8
学術大会開催案内	9
連携協力研究会活動報告	23
編集委員会	29
『日本語学研究』論文投稿案内	30
「365 One Stop 論文投稿システム」	36
学会ホームページ案内	37

事務局 〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社會館 424 號
盧姪鉉教授研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長: 李炤羅) ☎ 010-8901-2603
(学術事業企劃事務局長: 扈圭珍) ☎ 010-3464-1660
(教育広報事務局長: 伊藤貴雄) ☎ 010-2656-2098

ご挨拶



韓国日本語学会会員の皆様

韓国日本語学会第12代会長の盧姪鉉でございます。

ひととき暑さの厳しかった夏もようやく過ぎ、初秋の気配が感じられる9月となりました。学期初めのご多忙な時期かと存じますが、くれぐれもご健康で幸せな2学期をお過ごしくださいますようお願い申し上げます。

韓国日本語学会は1999年の創立以来、会員の皆様のあたたかいご声援に支えられ、国際学術大会を年2回開催し、韓国研究財団の登録学術誌を年4回発行するなど、名実共に「日本語学専門学会」として成長してまいりました。ウィズコロナ時代の幕開けとともに発足した第12代韓国日本語学会では、アンタクト(Untact, 非対面)時代のポジティブな変化を学術大会に取り入れ、3月の国際学術大会は国境を越えたオンラインでの交流と学問的な談論を交わすハイブリッド型シンポジウム方式で行いました。9月の国際学術大会では既存の対面方式による直接的な出会いと交流の場を提供しようと試みましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、残念ながらオンラインに転換せざるを得ませんでした。このような困難の中でも変わらぬご関心とご声援を賜りました会員の皆様に、改めて御礼申し上げます。

来る9月23日(土)にはコロナ禍を経て、ようやく対面方式で第48回国際学術大会が東国大学ソウルキャンパスにて開催される運びとなりました。今回の国際学術大会は「韓日中の日本研究の現状と課題」とのテーマで、日本の東アジア日本学研究会と共同で準備いたしました。

基調講演では、韓日対照研究分野の第一人者であられる東京大学の生越直樹名誉教授をお招きし、「日韓対照研究の成果と残された問題」というテーマで日本研究の現状と展望について共に考える貴重な場を設けました。また、国内外の研究者87名による最新の研究成果を会員の皆様と共に分かち合うため、「日韓両語の『不完全な文』をめぐって」、「日本語教科書と東アジア言語のジェンダー」、「多言語の日本語学習者における OPI データの比較」という3つのテーマの企画発表会場と、分野別の一般発表会場を設けました。

今回の学術大会は、実に4年ぶりとなる対面方式での開催でありますだけに、その間交流の機会が希薄だった韓中日の研究者間の意義深い交流と談論の場となりますことを心よりお祈りいたします。学期初めのお忙しい時期とは存じますが、どうかご臨席いただき、この2年間、労苦を惜しまずご尽力くださった第12代理事の先生方、そして、新たに誕生する次期執行部に、多くのご支援と激励を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、9月23日(土)に、東国大学にて会員の皆様にお目にかかれまことを心待ちにしております。

2023年9月

韓国日本語学会 第12代会長 盧姪鉉

役員名簿

■常任理事

役職		氏名	所属
會長		盧姪鉉	徳成女子大學校
副會長	研究	蔡盛植	高麗大學校
	編輯	李恩美	明知大學校
	學術	郭銀心	中央大學校
	事業企劃	李竣瑞	聖潔大學校
	教育弘報	角ゆりか	明知大學校
總務理事	研究編輯	鄭賢兪	西京大學校
	學術事業企劃	辛銀眞	仁川大學校
	教育弘報	中村有里	仁川大學校
財務理事		殷守希	淑明女子大學校
評價理事		梁乃允	中央大學校
學術理事		金義泳	ハンバツ大學校
		張允娥	釜慶大學校
		趙恩英	釜山外國語大學校
		白以然	高麗大學校
編輯理事		國生和美	東國大學校
		申媛善	建國大學校
		崔惠貞	カトリック大學校
		全紫蓮	慶尚國立大學校
		金惠娟	聖潔大學校
出版理事		李粹曷	嘉泉大學校
情報理事		李相怡	仁川大學校
弘報理事		張良光	カトリック大學校
國際交流理事	日本	金廷珉	亜細亜大学
		朴秀娟	神戸大学
		尹智鉉	中央大学
		鄭惠先	北海道大学

	中國	朴孝庚	漢陽サイバー大學校
		全永男	延邊大學
		母育新	西安外國語大學
		盛文忠	上海外國語大學
	臺灣	羅曉勤	銘傳大學
	オーストラリア	Lee,Duck-Young	The Australian National Univ.
対外協力理事	ソウル	文彰鶴	韓國外國語大學校
	京畿	方允炯	水原大學校
	江原	高慧禎	カトリック關東大學校
	忠北	李忠奎	西原大學校
	忠南	金玄珠	ハンバツ大學校
	慶北	李慈鎬	慶北大學校
	慶南	河在必	釜山大學校
	全南	林禔映	全南大學校
	濟州	孫榮奭	濟州大學校
	日本	金照雄	時事日本語社
事業企劃理事		李舜炯	慶北大學校
		李承珉	啓明大學校
事務局長	研究編輯	李炤羅	建國大學校
	學術事業企劃	扈圭珍	徳成女子大學校
	教育弘報	伊藤貴雄	弘益大學校

■一般理事（国内：가나다順，海外：五十音順）

国内		
検校裕朗(極東大)	具明會(韓國外大)	権城(木浦大)
金善姬(水原大)	金英敏(同徳女大)	金嚙泳(同徳女大)
金鍾完(江原大)	長島倫子(建國大)	野田高広(啓明大)
沼田浩通(南ソウル大)	高橋美保(韓國外大)	持田祐美子 (Lapu-Lapu Cebu International College)
朴江訓(仁荷大)	朴京愛(建國大)	朴良順(蔚山科技大)
齊藤明美(翰林大)	成知炫(韓國放送通信大)	孫範基(サイバー韓國外大)
宋殷美(白石藝大)	申義植(韓國外大)	相澤由佳(聖潔大)
安志英(釜慶大)	梁敏鎬(啓明大)	尹楨勛(釜山外大)
李京哲(東國大)	李羽濟(白石藝大)	李賢珍(祥明大)
鄭相美(新羅大)	趙宣映(仁川大)	崔延朱(慶尚國立大)

海外		
新井保裕(文京学院大)	石塚ゆかり(青森大)	市島佑起子(鹿児島大)
今村圭介(東京海洋大)	任炫樹(帝塚山学院大)	大塚薫(高知大)
生越直樹(東京大)	呉泰均(北海道大)	呉恵卿(国際基督教大)
河崎啓剛(東京大)	金愛蘭(日本大)	金庚芬(明星大)
金菊熙(松山大)	金智賢(宮崎大)	金蘭美(横浜国立大)
齊藤良子(国士舘大)	朱炫姝(目白大)	高木丈也(慶應義塾大)
辻野裕紀(九州大)	寺尾智史(一橋大)	永原歩(東京女子大)
名嶋義直(琉球大)	早矢仕智子(宮城学院女子大)	松永稔也(宮崎大)
幸松英恵(東京外大)	尹盛熙(関西学院大)	吉田さち(跡見学園女子大)
李讓珍(東京都立大)		

■編集委員会

職責	氏名	所属
編集委員長	姜錫祐	カトリック大
編集理事	國生和美	東國大
	金惠娟	聖潔大
	申媛善	建國大
	全紫蓮	慶尚国立大
	崔惠貞	カトリック大

音声学 音韻論	関光準(建國大) 宇都木昭(名古屋大学/日本) 李連珠(北海道大学/日本) 李承英(光云大) 孫範基(サイバー韓國外國語大) *高慧禎(カトリック關東大)	語用論 社会言語学	琴鍾愛(忠南大) 金庚芬(明星大学/日本) 鄭惠先(北海道大学/日本) 吉田さち(跡見学園女子大学/日本) 李恩美(明知大) *梁敏鎬(釜慶大)
統辞論 形態論	裴銀貞(釜山外國語大) 金廷珉(垂細垂大学/日本) 竹沢幸一(筑波大学/日本) 李徳泳(The Australian National Univ./濠洲) *朴江訓(仁荷大)	日本語教育	石井恵理子(東京女子大学/日本) 落合由治(淡江大學/臺灣) 曹英南(高麗大) 辛銀眞(仁川大) 李奎台(東京外大/日本) 角ゆりか(明知大) *金義泳(ハンバツ大)
意味論 語彙論	姜炅完(大邱カトリック大) 金愛蘭(日本大学/日本) 金愛蘭(慶北大) 塩田雄大(NHK 放送文化研究所/日本) 孫栄爽(濟州大) 宋永彬(梨花女子大)	日本語史	吳美寧(崇實大) 羅工洙(嶺南大) 林禎映(全南大) 朴善玉(大眞大) *朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	檢校裕朗(極東大) 中村有里(仁川大) 李朱利愛(梨花女子大) 盛文忠(上海外國語大學/中國) 李忠奎(西原大) 李東哲(山東省外事職業大学/中國) 全永男(延邊大學/中國) *李舜炯(慶北大)	◆ 「*」は、実務担当編集委員（実務委員） そのほかは審査担当編集委員（査読委員）である	

■ 監事

成玟珂(祥明大學校)

李善姬(ソウル女子大學校)

■ 研究倫理委員会

委員長	非公開
委員	非公開

■ 学術研究発展委員会

委員長	吳玟定(建國大)
委員	辛銀眞(仁川大)、朴京愛(建國大)、崔惠貞(カトリック大)、 金義泳(ハンバツ大)

■ 学術誌発展委員会

委員長	李恩美(明知大)
委員	高慧禎(カトリック関東大)、姜錫祐(カトリック大)、文彰鶴(韓国外大)、 鄭相美(新羅大)、梁敏鎬(釜慶大)

■ 日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか(明知大)
委員	金志宣(梨花女子大)、中村有里(仁川大)、川口慶子(崇實大)、小島堅嗣(培材大) 持田祐美子(Lapu-Lapu Cebu International College)、迫田亜希子(明知大)、

■ 学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓(啓明大)
委員	姜錫祐(カトリック大)、朴海煥(淑明女子大)、李恩美(明知大)、 曹英南(高麗大)

■ 学会発展基金委員会

委員長	李竣瑞(聖潔大)
委員	高慧禎(カトリック関東大)、金惠娟(聖潔大)、南得鉉(明知専門大)、 檢校裕朗(極東大)

■ 諮問委員会

監事	黃永熙(漢陽サイバー大)
委員	姜錫祐(カトリック大)、康仁善(聖公會大)、金玉任(誠信女子大)、 盧明姬(東國大)、閔光準(建國大)、朴海煥(淑明女子大)、 李暎洙(韓国放送通信大)、李範錫(カトリック大)、李漢燮(高麗大)、 尹幸舜(ハンバツ大)、鄭相哲(韓国外國語大)、洪珉杓(啓明大)

常任理事会

■第9次常任理事会

(2023年8月4日(金) 19:00、ZOOM オンライン会議)

1. 会長挨拶

2. 伝達事項

(1) 功勞牌授与: 第6代会長 金玉任(誠心女子大)教授

(2) 学術賞授賞

-韓国日本語学会 学術賞(論文 I 編): 孫榮奭(濟州大)

※손영석(2022)「뉴 미디어 시대의 자연어 데이터베이스 구축- 영상 KWIC 자동생성 기술을 중심으로 -」『日本語學研究』73 輯

-城西国際大学学術賞 論文(2 編): 朴善玉(大真大)/柳原恵津子(国立国語研究所)

※朴善玉(2021)「平成の新語・流行語における混種語の造語の様相」『日本語學研究』68 輯

※柳原恵津子(2021)「平安期記録体における漢字仮名交じり表記」『日本語學研究』70 輯

(3) ニュースレター、会員情報募集

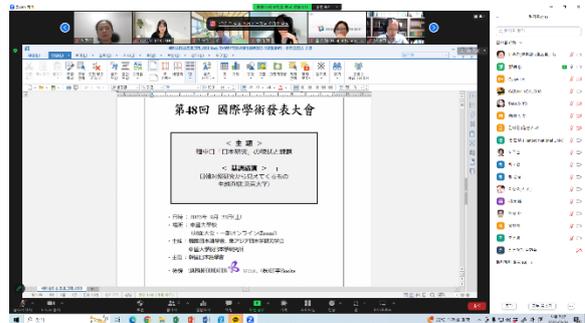
3. 特別案件: 第48回国際学術大会準備

4. 全体の議論事項

2023年9月学術大会 討論及び司会の配置

5. その他

次回の理事会: 2023年9月8日(金)予定



会員情報

○ 任用及び、転任

・恩塚 千代 会員

大手前大学 国際日本学部 教授(2022年4月1日～)

・張允娥 会員

釜慶大 日語日文学部 日語日文学専攻 助教授(2023年3月1日～)

○ 事務局

〒01369

Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大 人文社會館 424 號

盧姪鉉教授研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長：李炤羅) ☎ 010-8901-2603
(學術事業企劃事務局長：扈圭珍) ☎ 010-3464-1660
(教育広報事務局長：伊藤貴雄) ☎ 010-2656-2098

 jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수회(한국일본어학회) 殷守希 (韓国日本語学会)

- ・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に掲載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの[学会誌](#)よりダウンロードできますのでご利用ください。

韓國日本語學會 第48回 國際學術發表大會

< 主題 >

韓中日「日本研究」の現状と課題

< 基調講演 >

日韓対照研究の成果と残された問題
生越直樹(東京大学)

- ・日時：2023年 9月 23日(土)
- ・場所：東國大學校
(対面大会・一部オンライン(Zoom))
- ・主催：韓國日本語學會, 東アジア日本学研究会
東國大學校日本學研究所
- ・主管：韓國日本語學會
- ・後援：JAPAN FOUNDATION  SEOUL, (株)時事Books



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第48回 國際學術發表大會

- 日時：2023年 9月 23日(土)
- 場所：東國大學校 惠化館(対面大会・一部オンライン(Zoom))

<Program>

10:00-12:10	■一般発表	【対面大会】 第1発表会場 惠化館122 第2発表会場 惠化館123 第3発表会場 惠化館124 第4発表会場 惠化館125 第5発表会場 惠化館137 第6発表会場 惠化館138 第7発表会場 惠化館139	【オンライン大会】 第8-10発表会場は 案内URLを参照
12:10-13:30	休息		
13:30-14:10	■開會式・總會 開會辭：盧姓鉉 會長(徳成女大) 祝 辭：加藤 剛 所長(日本国際交流基金Seoul文化Center) 學會経過報告、會計・監査報告、功勞賞・學術賞授與 次期會長・副會長 認准	<司會：辛銀眞(仁川大)>	惠化館 Ko Soon Chung seminar室
14:10-14:20	■研究倫理講演 蔡盛植(高麗大)	<司會：辛銀眞(仁川大)>	
14:20-14:30	休息		
14:30-15:20	■基調講演 生越直樹(東京大)	<司會：文彰鶴(韓國外大)> <討論：梁敏鎬(釜慶大)>	
15:20-15:30	休息		
15:30-17:40	■企劃発表及び 一般発表	【対面大会】 第1発表会場 惠化館122 第2発表会場 惠化館123 第3発表会場 惠化館124 第4発表会場 惠化館125 第5発表会場 惠化館137 第6発表会場 惠化館138 第7発表会場 惠化館139	【オンライン大会】 第8-10発表会場は 案内URLを参照
17:40	懇親会		

※発表申請後にビザ等の問題で対面でのご参加が困難となった方々のために、
第8・第9・第10発表会場をオンライン会場として開設いたします。
下記のQRコードもしくはURLからご入場ください。

<第8発表会場>

第48回 国際学術大会 第8発表会場



韓国日本語學會

<https://us02web.zoom.us/j/8225550120?pwd=S1VvLzBPTy91UXlHbzdSbEhlazRmQT09>
会議 ID: 822 555 0120
password: 1234

<第9発表会場>

第48回 国際学術大会 第9発表会場



韓国日本語學會

<https://us06web.zoom.us/j/6108975810?pwd=YWViRiBCaXBScjRYZTBDOXhoT1FtZz09>
会議 ID: 610 897 5810
password: 1234

<第10発表会場>

第48回 国際学術大会 第10発表会場



韓国日本語學會

<https://us06web.zoom.us/j/7446770442?pwd=TVRiY3FIWU9sWmxJamE2S0czOWx2QT09>
会議 ID: 744 677 0442
password: 1234

<研究倫理講演>

14:10-14:20

[惠化館 Ko Soon Chung seminar室]

司會: 辛銀眞(仁川大)

연구자를 위한 연구윤리교육
研究者のための研究倫理教育
蔡盛植(高麗大)

<基調講演>

14:30-15:20

[惠化館 Ko Soon Chung seminar室]

司會: 文彰鶴(韓國外大)

討論: 梁敏鎬(釜慶大)

日韓対照研究の成果と残された問題
生越直樹
(東京大)

対面発表

第1発表会場

[恵化館 122]

▣ 日本語の文法

座長: 蔡盛植(高麗大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
招請発表					
10:00 -10:30	姜柳 (中国海洋大)	生態心理学からみる属性叙述文の主観性	日	河在必 (釜山大)	申義植 (Cyber韓國外大)
10:30 -11:00	何思莹 (名古屋大)	程度副詞の修飾機能について -「かなり」・「なかなか」-	日	金廷珉 (高麗大)	
11:10 -11:40	李知洙 (韓國外大)	祝詞(のりと)宣命(せんみょう)의 助詞 「二(爾/仁)」	韓	宋在漢 (東豆川外高)	河在必 (釜山大)
11:40 -12:10	陳泳姍 (名古屋大)	「ばかり」の記述的研究 -「限定」用法と「程度」用法を中心に-	日	方允炯 (水原大)	

▣ 企劃発表: 日韓両語の「不完全な文」をめぐって

座長: 李竣瑞(聖潔大)

15:30 -16:00	尹盛熙 (関西学院大)	日韓の不完全な文と「文脈に任せる情報」について	日	中村有里 (仁川大)	生越直樹 (東京大)
16:00 -16:30	金智賢 (宮崎大)	直接引用と名詞修飾に関する日韓対照分析 -「何じゃこりゃ状態」類の表現を中心に-	日	金知垠 (Catholic大)	
16:40 -17:10	新井保裕 (文京学院大)	日本語LINEにおける「不完全な文」の一考察 -メディアと言語構造、「表記意識」に 注目して-	日	文彰鶴 (韓國外大)	
17:10 -17:40	河崎啓剛 (東京大)	日本語「です」の終助詞化と 韓国語「해요」体形成の通時的対照	日	朴孝庚 (漢陽Cyber大)	

第2発表会場

[恵化館 123]

▣ 日本語と学習者

座長: 李範錫(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	楊迪 (名古屋大)	「~ばい」の使用における「基準」について	日	金容美 (韓國外大)	杉村泰 (名古屋大)
10:30	植松容子	上級日本語学習者を対象とした	日	工藤恵利子	

-11:00	(昭和女子大)	古語レディネス調査 -韓国語母語話者を例に-		(培花女大)	
11:10 -11:40	南明世 (北陸大)	日本語学習者による会話での相槌「確かに」 の使用実態に関する考察	日	宋殷美 (白石藝術大)	崔惠貞 (Catholic大)

■ 企画発表：日本語教科書と東アジア言語のジェンダー 座長：李美淑(明知大)

15:30 -16:00	遠藤織枝 (文教大)	日本語のジェンダー研究小史	日	蔵重優姫 (仁川大)	加藤恵梨 (愛知教育大)
16:00 -16:30	鄭相哲 (極東大)	日本語教材と国語(韓国語)教科書の ジェンダー	日	長島倫子 (建國大)	
16:40 -17:10	加藤恵梨 (愛知教育大)	中国で使用されている日本語教科書に 見られるジェンダー	日	中村智子 (培材大)	
17:10 -17:40	三枝優子 (文教大)	年少者日本語教育をとりまくジェンダー	日	畑中愛 (慶熙大)	

第3発表会場

[恵化館 124]

■ 対照言語学1

座長：李恩美(明知大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
	招請発表				
10:00 -10:30	郭蓉菲 (中南大)	中国語の“互相/相互”と日本語の「互い」との 対照研究 -言語類型論の観点から-	日	力丸美和 (九州大)	飯干和也 (祥明大)
10:30 -11:00	羅非凡 (名古屋大)	日本語の「V出す/出る」と中国語の“V出”の 対照研究	日	白以然 (Seoul科技大)	

■ 企画発表：多言語の日本語学習者におけるOPIデータの比較

座長：検校裕朗(極東大)

15:30 -16:00	川口慶子 (崇實大)	教師と学生の意識変化に見るOPIの教育的意 義	日	関陽子 (漢陽大)	角ゆりか (明知大)
16:00 -16:30	後藤歩 (檀國大)	アンケート調査の結果からみた聞き手の理解 度に影響を与える日本語学習者の音声的特徴 -ACTFL-OPIの上級レベルと中級レベルを中 心に-	日	井口恵菜 (江原大)	
16:40	安田佳奈枝	韓国人学習者を対象にした外来語の使用実態	日	孫朱彦	野村寛

-17:10	(Hanbat大)	と課題 -OPIを用いた質的考察-		(高麗大)	(世明大)
17:10 -17:40	小島堅嗣 (培栽大)	多言語の在韓日本語学習者におけるOPIデータの比較 -コードスイッチングの観点から]	日	嵯名美幸 (大邱Catholic大)	

第4発表会場

[惠化館 125]

▣ 対照言語学2

座長: 趙大夏(Seoul女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	徐停宇 (建國大)	한일 양언어 들숨 쫓소리의 소통의미와 발화의도에 중요성 日韓両言語の吸音・ヒソソリのコミュニケーションの意味と発話意図に重要性	韓	張允娥 (釜慶大)	梁乃允 (中央大)
10:30 -11:00	高源營 (高麗大)	한일 만화에서 나타난 놀람표현 대조연구 韓日漫画における驚き表現の対照研究	韓	林序衍 (木浦海洋大)	
11:10 -11:40	郝文文 (名古屋大)	日本語の動詞「受ける」と中国語の"受到"、 "得到"、"被-"の対照研究	日	宮崎聖子 (福岡女子大)	孫榮爽 (濟州大)
11:40 -12:10	宋啓超 (広島大)	日本語と中国語の逐次通訳の遂行における 実行機能の予測 -通訳訓練経験の有無による検討-	日	伊月知子 (愛媛大)	

▣ 談話

座長: 黃永熙(漢陽Cyber大)

15:30 -16:00	張良光 (Catholic大)	初対面自由会話における話題展開分析 -在日コリアンと日本語母語話者間の会話資料を中心に-	日	峯崎知子 (弘益大)	郭銀心 (中央大)
16:00 -16:30	鄭賢兒 (明知大)	드라마를 통해 본 한중일 불만표명행위의 특징 -‘미생’의 한중일 버전을 분석하여- ドラマを通して見た韓中日の不満表明行為の特徴 -‘未生’の韓中日版を分析し-	韓	金智媛 (高麗大)	
16:40 -17:10	林千賀 (城西国際大)	接客場面におけるホテルスタッフの断り談話 -意味公式の分析から-	日	金鍾完 (江原大)	李恩美 (明知大)
17:10 -17:40	許明子 (名古屋大)	話し手の視点の捉え方に関する日韓対照 -4コマ漫画のストーリーリングの調査を通して-	日	李承民 (慶北大)	

第5発表会場

[惠化館 137]

■ 日本語教育 1

座長: 張根壽(祥明大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者	
招請発表						
10:00 -10:30	林玉恵 (銘傳大学)	台湾日本語関係学科における観光関連授業の 現状と課題	日	脇山尚子 (東元大)	辛銀真 (仁川大)	
招請発表						
10:30 -11:00	葉淑華 (中国文化大)	台湾日本語教育におけるICT活用研究の現状 と課題 -AI関連を中心に-	日	尹楨勳 (釜山外大)		
11:10 -11:40	鄭惠先 (北海道大) 永岡悦子 (流通経済大)	SELの日韓における留学生教育への応用の 可能性と意義	日	関陽子 (漢陽大)		

■ 日本語教育2

座長: 崔殷赫(仁川大)

15:30 -16:00	中川正臣 (城西国際大) 福村真紀子 (茨城大) 本間祥子 (千葉大)	インクルーシブな社会を実現するための 言語教育実践 -「日本人のマジョリティ性」をテーマに したヒューマンライブラリーの試み-	日	高草木美奈 (大真大)	佐藤揚子 (慶熙大)
16:00 -16:30	カ丸美和 (九州大)	日本語教育におけるダイバシティ・ マネジメント -母語話者教師と非母語話者教師の割合が 教育に及ぼす影響-	日	横山菜穂子 (聖公會大)	
16:40 -17:10	中川良雄 (京都外国語 大)	日本語教師に求められる資質・能力と ネイティブ/ノンネイティブ教師の連携・協働	日	米澤史織 (淑明女大)	角ゆりか (明知大)
17:10 -17:40	杉村泰 (名古屋大)	韓国人・中国人日本語学習者における 日本語の「乗り物+で/に乗って」の選択	日	沼田浩通 (南Seoul大)	

第6発表会場

[惠化館 138]

■ 社会言語学

座長: 姜錫祐(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	今村圭介 (東京海洋大) 李賢貞	日韓両言語に対する英語からの影響の 測定比較	日	孫榮爽 (濟州大)	高恩淑 (韓國外大)

	孫美貞 李承民 李舜炯 (慶北大)				
10:30 -11:00	斎藤敬太 (跡見学園女子大)	子どもを読み手に想定した言語景觀に関する萌芽的研究	日	市島佑起子 (鹿児島大)	
11:10 -11:40	久屋愛実 (立命館大)	大規模実時間データ分析から見えてくること -言語変化のより複雑なプロセス解明に向けて-	日	張元哉 (啓明大)	高慧禎 (Catholic関東大)
11:40 -12:10	市島佑起子 (鹿児島大)	地方大学での留学と日本語地域方言 -元留学生の語りから見る地域方言への視座とその特徴-	日	斎藤敬太 (跡見学園女子大)	

■ 日本語と教育史

座長: 吳玗定(建國大)

15:30 -16:00	宮脇弘幸 (大連外国語大)	朝鮮総督府編『普通学校 国語読本』が描く韓国・日本 -第3期国語読本を中心に-	日	成玗珂 (祥明大)	李粹曷 (嘉泉大)
16:00 -16:30	宮崎聖子 (福岡女子大)	植民地台湾における女性と青年学校、実業補習学校	日	金ボイエ (高麗大)	
16:40 -17:10	伊月知子 (愛媛大)	元学習者が自己の歴史を経て語る「満洲国」教育観 -斉紅深氏が取り組むオーラルヒストリー研究の今日的意義-	日	朴善玉 (大眞大)	朴英淑 (水原科學大)
17:10 -17:40	渡部恭子 (聖徳大)	日本の前代教育における子ども観の多様性 -柳田國男の視点を手がかりに-	日	蔡侖周 (Hanbat大)	

第7発表会場

[惠化館 139]

■ 言語と文化

座長: 李京哲(東國大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:00	李慶国 (追手門学院大)	戦争と平和 -日中小学校『国語』・『語文』教科書を中心に-	日	金義泳 (Hanbat大)	趙恩英 (釜山外大)
11:10 -11:40	張柳柳 (南京工業大)	日本における中国人モニュメントの機能の変遷 -周恩来総理記念詩碑を中心に-	日	仲矢信介 (東京国際大)	中村有里 (仁川大)
11:40 -12:10	仲矢信介 (東京国際大)	ドラマ『深夜食堂』に見る日韓中の架橋 -日韓「バターライス」を中心に-	日	李慶国 (追手門学院大)	

■ 言語と交流

座長: 金光泰(韓瑞大)

15:30 -16:00	金龍哲 (東京福祉大)	「周辺文化」の伝承装置のメンテナンスに関する試論 -三浦半島における地域文化の伝承実践の仕組みを事例に-	日	崔肅京 (富士大)	宋淑正 (中央大)
16:00 -16:30	崔肅京 (富士大)	地域社会における持続可能な多文化共生に関する研究 -Y県を事例として-	日	金玄珠 (Hanbat大)	
16:40 -17:10	王維亭 (千葉大)	日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の変化 -技能実習生を中心に-	日	趙恩英 (釜山外大)	

オンライン発表

第8発表会場

■ 日本語学

Zoom host: 娜荷芽(内蒙古大)

時間	発表者	主題	発言言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	辻本桜子 (甲南大)	「助言」研究の概観と今後の課題	日	金光林 (新潟産業大)	金光林 (新潟産業大)
10:30 -11:00	清水泰生 (同志社大)	スポーツ用語と一般用語とのずれの違いについて	日	金光林 (新潟産業大)	
11:10 -11:40	橋本恵子 (福岡工業大)	福岡方言に関する意識調査	日	清水泰生 (同志社大)	清水泰生 (同志社大)
11:40 -12:10	胡蘇紅 (中国社会科学院)	日本語自然会話におけるターンの共同構築に関する一考察	日	清水泰生 (同志社大)	

■ 日本語教育

Zoom host: 娜荷芽(内蒙古大)

15:30 -16:00	朴美琴 (延辺大)	中国における基礎日本語教材の一考察	日	娜荷芽 (内蒙古大)	娜荷芽 (内蒙古大)
16:00 -16:30	靳夢瑩 (九州大)	中国教科書における複合動詞「～だす」の出現状況 -中国教科書を対象に-	日	娜荷芽 (内蒙古大)	
16:40 -17:10	大橋真由美 (東京福祉大)	多文化共生における地域日本語教育の課題 -群馬県の地域日本語教育の取組みから-	日	金珽実 (商丘師範学院)	金珽実 (商丘師範学院)
17:10	娜荷芽	1930~1940年代における内モンゴル人の	日	金珽実	

-17:40	(内蒙古大)	日本留学		(商丘師範学院)
17:40 -18:10	劉澤軍 (天津外国語大)	中国語を母語とする学習者における名詞句の省略について	日	金琰実 (商丘師範学院)

第9発表会場

■ 日本文学

Zoom host: 李東哲(山東外事職業大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	朴占玉 (新羅大)	『万葉集』の女流歌人についての一考察 - 大伴家持をめぐる女性 -	日	金龍哲 (東京福祉大)	金龍哲 (東京福祉大)
10:30 -11:00	安勇花 金全 (延辺大)	志賀直哉「三つの処女作」についての考察	日	金龍哲 (東京福祉大)	
11:10 -11:40	張夢雅 (新羅大)	『源氏物語』における仏教的思想について - 藤壺、六条御息所、紫上の出家を 中心にして -	日	安勇花 (延辺大)	安勇花 (延辺大)
11:40 -12:10	庄婕享 (惠州学院)	揺らく明石の君の心 『源氏物語』中国語訳の比較分析を通して	日	安勇花 (延辺大)	

■ 言語と交流

Zoom host: 李東哲(山東外事職業大)

15:30 -16:00	張智超 于心 (成都東軟学院)	アニメ作品における曹操像の研究 - 「横山三国志」の受容を視点に -	日	邢璐 (新羅大)	李東哲 (山東外事職業大)
16:00 -16:30	邢璐 (新羅大)	日本戦国歴史小説の研究 - 曹操と織田信長について -	日	張智超 (成都東軟学院)	
16:40 -17:10	于心 張智超 (成都東軟学院)	日中両国の仏教説話における恋の鬼の比較研究 - 「愛」と「憎しみ」を中心に -	日	蘇文鑫 (安徽農業大)	
17:10 -17:40	蘇文鑫 (安徽農業大)	日中同形異義語「綺麗」に関する研究	日	于心 (成都東軟学院)	

第10発表会場

■ 家族と教育

Zoom host: 李東輝(大連外国語大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	畢舜堯 (奈良女子大)	中国都市部女性の出産意識と子どもの価値の 関わりについて	日	李東輝 (大連外国語 大)	李東輝 (大連外国語 大)
10:30 -11:00	崔旭 (新潟大) 蘇文鑫 (安徽農業大)	中国の少子高齢化社会及びその対応方法 -日本社会を参考するもに-	日	李東輝 (大連外国語 大)	
11:10 -11:40	高妹傑 (山東外事職 業大)	中日両国大学段階人材育成の比較について	日	金光林 (新潟産業大)	金光林 (新潟産業大)
11:40 -12:10	李東輝 饒勝男 (大連外国語 大)	『朝日新聞』の事例からみる日本家族の介護 意識の変遷-1980年~2019年のデータベース を中心に-	日	金光林 (新潟産業大)	
12:10 -12:40	金珽実 (商丘師範学 院)	清末民国期における河南留学生研究 -名簿を中心に-(이동)	日	金光林 (新潟産業大)	

■ 社会と文化

Zoom host: 李東輝(大連外国語大)

15:30 -16:00	菅陽子 (総合研究大 学院)	台湾阿里ツォ族の経済意識の現状と展望	日	滝澤修身 (長崎純心大)	滝澤修身 (長崎純心大)
16:00 -16:30	孫振 (早稲田大)	中国自動車市場における提携パートナーの 選択要因 -トヨタの例を中心に-	日	滝澤修身 (長崎純心大)	
16:40 -17:10	孫蓮花 (大連理工大)	日本の知的障害者向け「わかりやすい」 情報提供 -4字以上漢字列の置き換えストラテジーを 中心に-	日	菅陽子 (総合研究大 学院)	菅陽子 (総合研究大 学院)
17:10 -17:40	滝澤修身 (長崎純心大)	長崎県外海町の潜伏キリシタンをめぐる考察	日	菅陽子 (総合研究大 学院)	

地圖·交通案内

[동국대학교 찾아오시는 길]



주소 · 전화

[04620] 서울특별시 중구 필동로 1길 30 <☎ 02-2260-3114>
30, Pildong-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, 04620, Republic of Korea

교통편

[지하철 이용시]

- ☞ 3호선 동대입구역 6번 출구 이용
- ☞ 3호선 4호선 충무로역 1번 출구 이용

[버스 이용시]

- ☞ 장충동 (동국대입구)
 - 지선버스 7212
 - 간선버스 144, 301, 420, 407
- ☞ 대한극장 앞
 - 지선버스 7011
 - 간선버스 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

[자가용 이용시]

- ☞ 모든 자동차의 출입은 동국대 정문으로만 가능

地図・交通アクセス

[東国大学校へのアクセス]



● 住所・電話

☎ [〒04620] Seoul特別市 中區 筆洞路 1gil 30 <☎ 02-2260-3114>
30, Pildong-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, 04620, Republic of Korea

● 交通

【 地下鉄のご利用 】

☎ 3号線 東大入口(トンデイク)駅 6番出口
3号線 4号線 忠武路(チュンムロ)駅 1番出口

【 バスのご利用 】

☎ 獎忠洞(チャンチュンドン) (東国大入口[トングツテイク])
支線バス 7212
幹線バス 144, 301, 420, 407

☎ 大韓劇場前(テハンクツチャンイク)

支線バス 7011
幹線バス 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

【 お車のご利用 】

☎ すべての車両は正門のみ通行可能です。

連携協力研究会活動報告

□ 韓国協働実践研究会 □

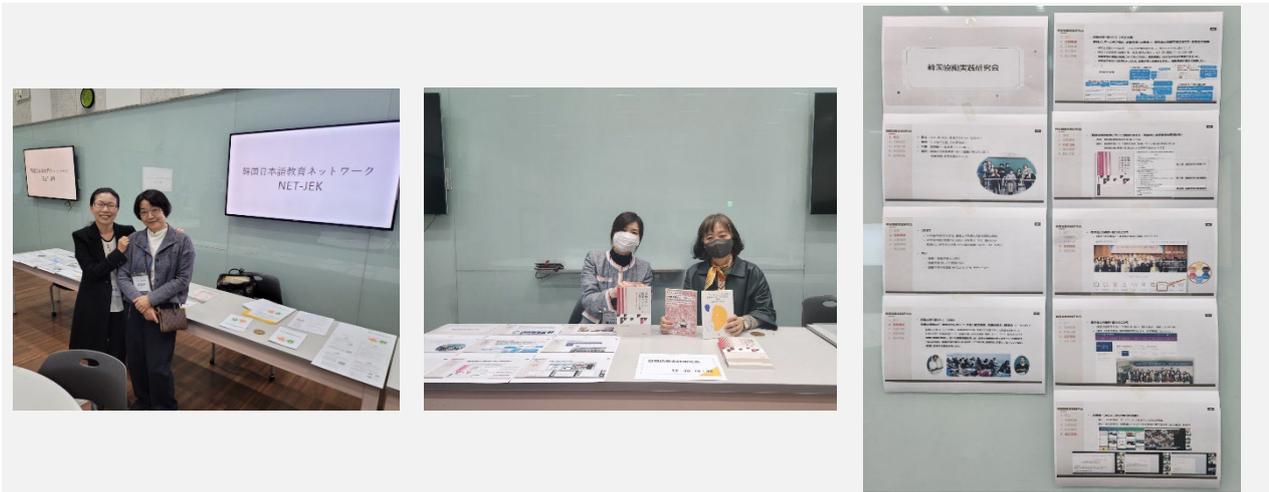
韓国協働実践研究会 2023年度上半期 活動報告

韓国協働実践研究会は、2010年に日本協働実践研究会の各国プラットフォームの一つとして立ち上げられました。本研究会では、韓国の日本語教育において協働の考え方に基づく授業実践・研究を進めていくことを目指し、1、2ヶ月ごとの定例会でそれぞれの授業実践を報告し、コメントし合う活動を行ってきました。

今回は、2023年度上半期の主な活動について報告いたします。

□ 韓国日本語教育ネットワーク(NET-JEK)ブースの参加

韓国日本語教育学会第43回国際学術大会(2023.4.22)にて、韓国日本語教育ネットワーク(NET-JEK)の各研究会の案内ブースが設けられました。本研究会も参加し、協働実践研究会の紹介やこれまでの活動、今後の活動予定について案内いたしました。



□ 定例会

定例会(3/4、5/13、7/8)では、前回につづき、館岡洋子編(2016)『日本語教師の専門性を考える』を用い、担当者を決めて要約・発表してもらい、感想や意見などを出し合いました。

【第3部 提案編】

第6章 「専門性の三位一体モデル」の提案—動態性をもった専門性を考える枠組み(2023.3.10、趙宣映)

第7章 専門家としての日本語教師と省察(2023.5.13、金志宣)

第8章 「三位一体ワークショップ」の提案—省察を促す学びの場づくり(2023.7.8、角ゆりか)



*協働学習実践の教育・研究に興味のある方は、以下の日本協働実践研究会のホームページをご参照ください。
日本協働実践研究会HP <http://kyodo-jissen-kenkyukai.com/>

☐ 日韓コミュニケーション研究会 ☐

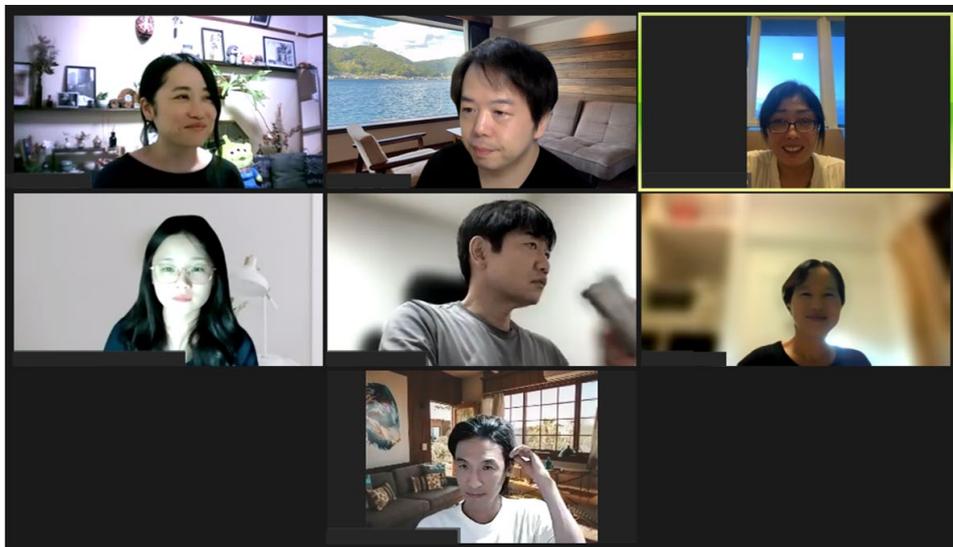
私ども日韓コミュニケーション研究会は、2013年5月に「在韓待遇コミュニケーション勉強会」として発足し、翌年の10月には学術研究活動に重きを置くべく「在韓待遇コミュニケーション研究会」に、同年11月には、待遇コミュニケーションだけでなく広く日韓のコミュニケーション全般に関わる研究に取り組んでいく趣旨のもと「日韓コミュニケーション研究会」へと名称変更をし、今日に至ります。

本年は新たに1名の会員を迎え、2023年8月現在の会員数は韓国在住3名、日本在住2名、フィリピン在住1名の計6名となっております。個人での研究活動だけでなく、共同研究にも取り組んでおり、各種の学会での発表を目指し、日頃より準備を進めています。また、定期的開催される全体会で、今後の研究の構想を相談し合ったり、進捗状況の報告や情報交換、会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。

日本や韓国、フィリピンに会員がいるため、オフラインだけでなく、オンラインでの会議も頻繁に行っています。そのため、一か所だけでの研究ではなく幅広いフィールドで研究活動ができ、データ集めや資料集めの際には会員同士で積極的に協力し合っています。

こうした活動をもとに、韓国内外の学会における口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等、様々な形で成果をあげています。(詳しくはホームページの「研究成果」をご覧ください：

http://nikkancommu.officialblog.jp/archives/cat_399192.html)



今年の3月には韓国日本語学会の国際学術大会に共同開催のかたちで参加し、渋谷、張、持田の3名が企画発表を行いました。また、その際に発表した研究をまとめた論文が9月に刊行される同学会の学会誌『日本語学研究』第77輯(研究主題：言語コミュニケーションの韓日対照研究)に掲載されます。

今後も韓国日語教育学会をはじめ、各学会の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思っております。

韓国 OPI 研究会

韓国 OPI 研究会 2023 年度・上半期 活動報告

韓国 OPI 研究会では、OPI(Oral Proficiency Interview: 全米外国語教育協会(ACTFL)が開発した口頭能力を測るためのインタビュー方式のテスト)に関する知識やインタビュー方法などを知り、教育や研究に活かすことを目的とした活動を続けています。最近では東京に拠点を置く「日本語 OPI 研究会」と台湾に拠点を置く「台湾 OPI 研究会」との交流も行っています。今回はその交流の部分も含めた定例会とスタディについて報告いたします。

◆定例会

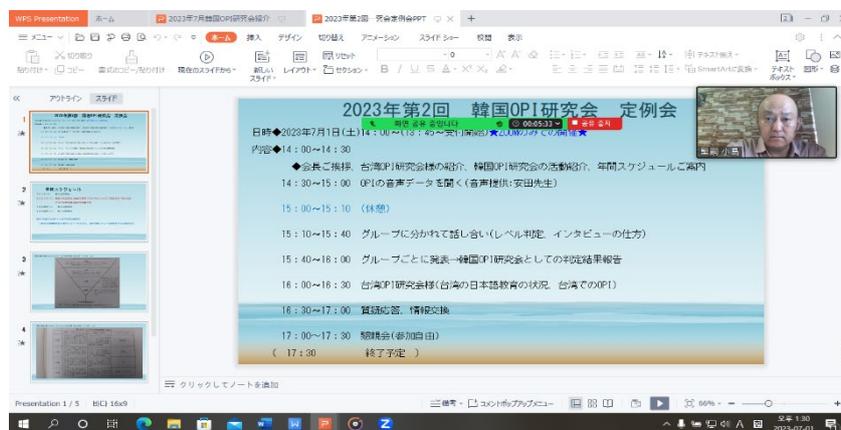
本年度の上半期における第 1 回定例会(4 月 1 日)は、ハイブリッド形式(ソウルのスタディカフェとオンライン(ZOOM))で行われました。LIVE で実施した OPI デモンストレーションの音声を聞いたあと、3 つのグループに分かれてレベル判定の話し合いを行いました。

また第 2 回定例会(7 月 1 日)はオンラインのみで行われました。この会では、2015 年に設立された台湾 OPI 研究会から 6 名の先生を招待することになりました(これは国立台中科技大学の羅曉勤先生のご尽力によって実現したものです)。この会では通常の OPI 音声のレベル判定のあとに、4 名の先生が台湾での日本語教育の状況や OPI の状況について詳細に報告してくださいました。ご報告の要点としては、1)台湾の大学では、伝統的な言語学の教育に加えて日本でのビジネスに対応できるような部分も強化されている、2)「社区大学」という誰でも学べる生涯学習のシステムが整備されている、3)OPI の認知度はまだ高くはないが今後研究会の活動を充実させることで啓蒙をはかっていきたい、という 3 点が挙げられます。

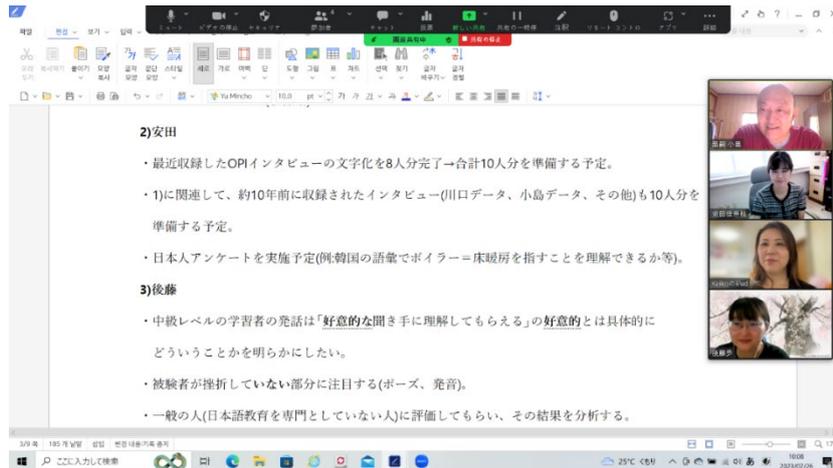
◆学会企画発表に向けての研究プロジェクト

9 月 23 日(土)に開催予定の韓国日本語学会様の学術大会に向けて、本研究会のメンバー 4 名(川口、後藤、安田、小島)が研究プロジェクトを立ち上げて活動しています。4 名が OPI のデータを基に異なるテーマを掲げ、情報交換形式の zoom 会議をしながらそれぞれの研究を進めています。会議の様子は、次ページの写真をご参照ください。

定例会、スタディ、ワークショップ等の情報はホームページと Facebook でも発信しておりますのでご参照いただければ幸いです。定例会やスタディの見学はいつでもできます(初回の見学は参加費無料です)。ご興味があれば、研究会のメールアドレス宛にご連絡いただければと思います。



(2023 年度第 2 回定例会の様子)



(研究プロジェクト会議の様子)

韓国 OPI 研究会メールアドレス:kankokuopi@gmail.com

韓国 OPI 研究会ホームページ:<http://opik.da-te.jp/>

[韓国 opi 研究会 | Facebook](#)

📖 AIとクリエイティブ・ラーニング研究会(AI-CL) 📖 (Association for AI and Creative Learning)

本研究会も参加し、共催した 2023 年第 6 回 AI と日本語教育国際シンポジウムが台湾で行われました。本研究会からは、検校裕朗会長が開会挨拶と発表を、会員の金旻嬪先生(韓国 教育部 長官賞受賞者)が韓国中等教育を代表して発表を行いました。14 本の示唆に富んだ AI と日本語教育に関連した学術発表が行われ、新しい学びの多い学術大会でした。

2023 年第 6 回 AI と日本語教育国際シンポジウム【AI人工知能メタバースと日本語教育】

場 所 台湾 淡江大学淡水キャンパス・驚声国際会議センター

時 間 2023 年 4 月 15 日(土曜日)08:30-17:30

主 催: 淡江大学村上春樹研究センター

共 催: 淡江大学 AI 創智学部・台湾日本語教育学会・AI とクリエイティブ・ラーニング研究会

開会式 司会: 樋口 達郎(淡江大学助理教授)

開会挨拶 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター主任)

呉 萬寶(淡江大学外国語学部学部長)

検校 裕朗(極東大学校教授・AI とクリエイティブ・ラーニング研究会会長)

9:00-10:00 基調講演 司会: 徐 興慶(中国文化大学前学長)

1. 張 志勇(淡江大学特聘教授)「元宇宙觸發日語教育的爆發力」

10:10-10:15 招待発表 コメンテーター: 賴 錦雀(東呉大学特聘教授)

2. 検校 裕朗(極東大学校教授・AI とクリエイティブ・ラーニング研究会会長)「日本語教育とメタバース—韓国における動向—」

3. 金 旻嬪(青園高等學校教諭)「メタバースの日本語実践」

11:15-11:20 コメンテーター: 王 世和(東呉大学教授兼学部長)

- 4.葉 淑華(中国文化大学・高雄科技大学教授)「未来教員の ICT 活用力向上の試み—AIとVRの日本語教材作成を例に—」
- 5.曾 秋桂(淡江大学教授)「メタバースの日本語教育へ導入する可能性を探る—タスクと評価を中心に—」
13:00-13:05 コメンテーター:林 慧君(台湾大学教授兼学科主任)
- 6.頼 錦雀(東呉大学特聘教授)「AI作家は登場したのか—AI文章生成に対する学習者の意見から—」
- 7.林 淑璋(元智大学准教授)・吳 翠華(元智大学准教授)・黃 怡錚(元智大学助理教授)「Unityを用いたゲーム制作による日本語学習について—実践例とその効果—」
- 8.王 嘉臨(淡江大学准教授)「メタバースを活用した言語教育の試み—メタバーススタジオを通して—」
14:30-14:35 コメンテーター:楊 錦昌(輔仁大学教授)
- 9.黄 金堂(中国文化大学准教授)「AI人工知能 Chat GPT の応用と日本語教育」
- 10.梁 蘊嫻(元智大学准教授)「桃園神社のメタバース—AR/VRによる古跡ガイド—」
- 11.堀越 和男(淡江大学准教授)「AI時代の日本語学科のビジョン」
16:00-16:05 コメンテーター: 羅 濟立(東呉大学教授兼学科主任)
- 12.陳 若婷(東呉大学助理教授)「ピアアセスメントとデジタルマインドマップを取り入れたプロジェクト学習(PBL)—拡張現実(AR)の作品への影響を中心に—」
- 13.潘 寧(大同大学助理教授)「対話型 AI チャットボット「エアフレンド」を利用した日本語教育実践—学習者へのアンケート調査の分析を中心に—」
- 14.葉 菱(淡江大学准教授)「日本語会話授業におけるメタバース教材の可能性 —教室活動での実践として—」
- 閉会式 司会: 樋口 達郎(淡江大学)
閉会挨拶 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター主任)
邱 若山(静宜大学)

*2023年4月16日に、檢校裕朗会長が台湾高雄市の靈園を訪問し、本研究会顧問でいらっしやった故 落合由治先生のお墓参りに伺いました。



*本研究会運営委員の尹楨勛先生(釜山外大)が2023年4月29日(土)に台湾高雄市の文藻外語大学で行われた2023年応用日本語シンポジウム(主催: 社団法人台湾応用日語学会、主題「ニューノーマル時代における日本語教育と日本研究の未来」)に本研究会を代表して参加し、基調講演「韓国の日本語教育におけるAI研究の現状」を行いました。

AIとクリエイティブ・ラーニング研究会(AI-CL)ホームページ: <https://sites.google.com/view/ai-cl2021>

※現在、入会費・年会費無料で入会を受け付けております。AIとクリエイティブ・ラーニング研究会の活動に関心のある方は、上記ホームページより是非ご入会ください。

☐ 韓国継承日本語教育研究会 ☐

2023年は、研究会設立10周年を迎えます。また、世界の継承日本語教育団体に対する国際交流基金からの助成が強化されるなど、継承日本語教育に対する関心が高まっています。多くのご関心とご協力をよろしくお願いいたします。

◆第36回 定例会「韓国継承日本語教室大集合3 交流会 みんなで遊ぼう」開催

2023年5月20日(土)に、タリン(ハナ銀行が支援している多文化支援センター)にて、対面での活動を行いました。親子で一緒にコマの歴史や原理などについて学び、実際にコマを作成して楽しい時間を過ごしました。また、国際交流基金からいただいた日本語教育で使える道具類を「宝の山分け」という形で参加の皆さんに提供するなど、実り多い時間を過ごしました。



◆豪州繫生語研究会・国際交流基金・UNSWの共催セミナー「第16回 韓国における日本と繋がる子どもたちの状況と課題」

6月3日(土)に、韓国の継承日本語について紹介する機会をいただきました。セミナーには世界各国から参加者があり、世界の継承日本語教育についてや歴史問題の扱い方などについて話し合う良い機会となりました。セミナーについてのアーカイブは、国際交流基金の下記のリンクよりお申し込みいただけます。<https://jpf.org.au/events/vod-registration-japanese-language-education-seminar-with-unsw-jun-2023/>

◆夏の勉強会を開催

8月の毎週水曜日、全5回の勉強会を通して『リングフランカとしての日本語-多言語・多文化共生のために日本語教育を再考する』を読みます。著者の先生方にも参加していただきました。



★韓国継承日本語教育研究会の活動にご興味を持たれた方、是非ともご連絡下さいませ。

ホームページ <http://krkeishougo.net>
Facebook グループ「韓国継承日本語教育研究会」

編集委員会

【日本語学研究 第77輯（2023年 9月20日 発行）】

第1次 編集委員会（オンライン）

- 日時: 2023. 7. 18（火）
- 場所: オンライン/Zoom会議
- 議論内容:
 - (1) 77輯（9月20日発行）投稿論文審査委員選定
 - (2) 77輯 編集委員会の日程及び今後の計画（案）確認
 - (3) 日本語学研究 第78輯 論文投稿のご案内
（投稿締切日 2023年9月30日、発行日12月20日）



『日本語学研究』 論文投稿案内

『日本語学研究』 投稿規定

■ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

- ①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。
- ②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。

③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。

②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。

③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。

④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

『日本語学研究』 投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。
(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例:音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤ キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨ 参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003) 「한일어 조사대조」 『일본어학연구』 6 한국일본어학회 pp.1-5

_____ (2004) 「일본어 대우표현의 특징」 『일본어학연구』 10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969) 「すがたともくろみ」 『日本語動詞のアスペクト』 麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp. 1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に<図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限:学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限:論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限:掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文: 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号: 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

[審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類：使用者定義, 幅170, 縦240

■余白：上 20, ヘッダー10, 下 10, フッター-0, 左 15, 右 15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 論文作成例示を参考にすること。

韓国語でお困りの海外外国人研究者のための
365 One Stop 論文投稿システム

◎「365 One Stop 論文投稿システム」とは、

韓国語でお困りの海外外国人研究者のみなさまが円滑に論文投稿できるよう、サポートするために考えられた論文投稿システムです。

これまで海外から当学会の学術誌『日本語学研究』に投稿するには、韓国の研究財団が指定する論文投稿システム(JAMS)を通さなければなりません。しかし、JAMSは韓国語と英語にのみ対応しており、韓国語の分からない海外外国人研究者が韓国語や英語で会員登録などの複雑な手続きを進めていくのは困難な状況にあります。

当学会では、このような現状を踏まえて、担当者とのメールを通して円滑に論文投稿できるよう、「海外外国人研究者のための365ワンストップ論文投稿システム」を準備いたしました。

論文投稿をお考えの海外外国人研究者の方は以下のメールアドレスまでお問い合わせください。(韓国語にお困りでない研究者の方は「365 One Stop 論文投稿システム」をご使用いただけません。ご了承のほどお願いいたします。)

論文作成例や論文投稿に関する手続きなどのご案内をいたします。論文投稿時には英語及び韓国語での要旨が必要となりますが、日本語で要旨を作成していただければ、当学会で韓国語に翻訳いたします。

その他、ご不明な点やご質問などいつでも承ります。

海外外国人研究者のみなさまのご投稿をお待ちしております。

担当者：國生和美(編集委員)

メールアドレス：jlak365onestop@gmail.com

韓国日本語学会第12代編集委員会一同

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

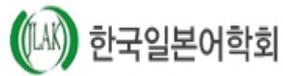
1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報



学会ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr/>

The Japanese Language
Association of Korea



ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。

記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
<p>〒(01369) 서울특별시 도봉구 삼양로 144 길 33 덕성여자대학교 인문사회관 424 호 노주현 교수 연구실</p> <p>(연구편집 사무국장 : 이소라) ☎ 010-8901-2603 (학술사업기획 사무국장 : 호규진) ☎ 010-3464-1660 (교육홍보 사무국장 : 이도 타카오) ☎ 010-2656-2098</p>	<p>〒01369 Seoul 特別市 道峰區 三陽路 144gil 33 徳成女子大學校 人文社會館 424 號 盧姪鉉教授研究室</p> <p>(研究編集事務局長 : 李炤羅) ☎ 010-8901-2603 (學術事業企劃事務局長 : 尾圭珍) ☎ 010-3464-1660 (教育広報事務局長 : 伊藤貴雄) ☎ 010-2656-2098</p>
<p>E-mail : jlak123@hanmail.net Homepage : http://www.jlak.or.kr</p>	